

目次

はしがき……………三

小松寿雄先生略年譜……………五

小松寿雄先生著作略目録……………三三

〔小松先生との思い出〕

恩人、小松さん……………一

小松寿雄先生のこと……………五

〔論文〕

江戸語の致ス 付 致される……………九

漢語の意味と用法の拡がりについての一考察……………三七

——「活計」と「克己」を中心として——

国立国会図書館蔵百二十句本『平家物語』の 資料的価値について……………	今野 真二……………	四
--	------------	---

伝書系女中ことば集から女性書系女中ことば集へ……………	松井 利彦……………	五
-----------------------------	------------	---

『頭書増補節用集大全』五行本四態……………	佐藤 貴裕……………	六
——世界図付録は元禄六年をさかのぼらない——		

寛政期金沢方言談話資料『卑陋瑣言』について……………	矢田 勉……………	二七
----------------------------	-----------	----

長母音と長子音の交替……………	肥爪 周二……………	二五
-----------------	------------	----

鈴木胤の「コ、ロ」……………	小柳 智一……………	二七
——『言語四種論』読解・続々——		

「破落戸」小考……………	長崎 靖子……………	二〇三
--------------	------------	-----

「衛星」の語史とその周辺について……………	米田 達郎……………	二二三
——江戸時代後期から明治時代を中心に——		

『文機活法』における「シム(令)」「イタス(致)」の用法……………	山田 潔……………	二四
-----------------------------------	-----------	----

明治十年刊繁昌記の振仮名表記システム……………	荒尾 禎秀……………	二六
-------------------------	------------	----

漢語の成立事情について……………	丸田 博之……………	二六
——「皮肉」は漱石・芥川の手によったか——		

山田文法における「熟語」……………	玉村 禎郎……………	二〇五
——構成要素が並立関係にあるものをめぐって——		

品詞分類の理念……………	井島 正博……………	三三
--------------	------------	----

テキストにおける語の出現頻度と出現位置……………	山崎 誠……………	二五五
——動的な語彙論の確立のために——		

暑さに関する程度表現……………	櫛橋比早子……………	二三五
-----------------	------------	-----

明治大正期における都市間競争としての「標準語」……………	村上 謙……………	二一七
------------------------------	-----------	-----

明治後期以降における尊敬表現「お／ごゝになる」……………	伊藤 博美……………	199
漱石作品の「ちまう」「てしまう」について……………	北澤 尚……………	175
S. R. ブラウン著『Prendergast's Mastery System』の 成立について……………	常盤 智子……………	155
『自由之理』における外国語のカタカナ表記の記載方法……………	木村 一……………	135
——外来語への道程——		
幕末明治初期「放課」の成立と 「放課後」「休み時間」への転換……………	園田 博文……………	113
静嘉堂文庫蔵『改正増補蛮語箋』巻一写本について……………	櫻井 豪人……………	93
——草稿であることと『模理損字書』が利用されたことの指摘——		
近世後期江戸語における「おゝだ」……………	山田 里奈……………	73
——テイル形・テイタ形に言い換えられる場合に着目して——		
近世後期洒落本の会話文に見られる語彙の 使用者の男女差……………	市村 太郎……………	55
短単位 N-gram でみる洒落本コーパス……………	渡辺 由貴……………	35
——東西差・男女差の概観——		
洒落本資料から見る「で＋は」の融合音訛形の東西差……………	岡部 嘉幸……………	19
——指定辞デ＋係助詞ハと格助詞デ＋係助詞ハを中心に——		
初期近代語の接頭辞に関する一考察……………	田和真紀子……………	1
——土井本『太平記』の「接頭辞サシ＋動詞」の意味を中心に——		
執筆者略歴……………		六七

は し が き

小松寿雄先生におかれては、令和四年十二月十一日をもって満九十歳をお迎えになりました。その後もお元気にお過ごしになり、本集刊行時には九十二歳になられます。今は大学の教壇にはお立ちではありませんが、埼玉大学名誉教授として本学会の代表（令和五年まで）として、変わらず学界のためご活躍になっていらっしゃいます。

私どもは、長く近代語研究、特に江戸語研究を先導され、学界に多大な貢献をされた小松先生の学恩に感謝し、また、先生のご長寿をお祝いするため『近代語研究』第二十五集を『小松寿雄先生卒寿記念論文集』として編集することを計画し、その旨を先生にお願いしたところ、先生よりお許しをいただくことができましたので、先般、そのような趣旨で本集の原稿執筆をご依頼申し上げました。幸いにも多くの方々からご賛同をいただき、研究論文二十九編が集まりました。内容は、先生のご専門である近世語、特に江戸語に関するものから、広い意味での近代語に関するものまで、本学会の会員の皆様のご関心の広さを反映した多彩な論考が揃いました。また、小松先生とご懇意でいらっしゃるお二人の先生に小松先生との思い出についての貴重なエッセイを

ご寄稿いただき、ここに一書として編むことができませんでした。

先生が今後ますますご健勝にて、当学会をはじめ斯界にさらにお力添えいただけるようお願い申し上げます。謹んでこの二十五集を小松寿雄先生のご机下に献呈申し上げる次第です。

令和七年六月吉日

『近代語研究』第二十五集編集世話人

常盤 智子

岡部 嘉幸

木村 一